



＜城壁で囲われた観光都市＞ 歴史と美しい景観の街 ヨークを旅する

ヨーク（York）は北部イングランドに位置するイギリスでも非常に有名な観光地である。ノースヨークシャー・カウンティに属し、位置的にはリーズから東北東へ少し行った場所にある。知人からもヨークは美しい街と伺っており、一度じっくりと見てみたいと思っていた場所であった。ちなみにYouTubeなどの動画サイトでも色々な方が動画でヨークの街を紹介されている。今回機会に恵まれヨークを訪問することができ、自らの足であちらこちらと歩き回ってきた。最初にひとつお断りをさせていただきたいのだが、日ごろの行いの悪さからか、今回のヨーク滞在中、天気はずっと秋雨状態、雨が降ったりやんだりを繰り返していた。そのため、移動時間や人出などは天気の良い観光シーズンとは少し違ったものとなっているかと思われる。また写真も残念ながら雨模様の中で撮影したものとなっている。その点は予めご了承ください。

とある9月の土曜日、旅の始まりは早朝のロンドン、キングスクロス駅から。ロンドン出発時の天気は、どんよりした曇り空で気温13度と少し肌寒い秋の空気。キングスクロスの駅はいかにも歴史のある駅という風情で、すぐ隣の国際電車が出るセントパンクラス駅とは違った落ち着きがあり、個人的には好きなイギリスの駅の一つである。予約していた電車まで少し時間があるので軽く朝食をいただきながら行き交う人の流れを眺める。ちなみにキングスクロス駅で有名なハリポッター撮影エリアはまだ開始前ということで人はおらず、誰も並んでいない9と4分の3番線は珍しい。ヨークまで乗る電車はLNER（ロンドン・ノース・イースタン・レールウェイ）のエジンバラ行き。最近ではテレビなどでもLNERのキャラクターである赤髪のエレノアちゃんのCMを見かけることも多い。ヨークまでの途中でドンカスターなど数駅を通るが、それでも片道2時間ほどと手頃な乗車時間である。なおこのLNERは日立製作所製のAZUMA車両で運航されており、広めの座席でwifiも完備。乗車すると座席の横にそれぞれの席がどの区間で利用されるか表示されている。つまり隣の席にどこの駅からどこの駅まで人が座

るのが一目でわかる。表示によれば次の停車駅から隣の席に人が来るようだ。それまでは電源を使わせてもらおう。（AZUMA車両は各席下に電源コンセントが付いているのも便利である。）

なお、このAZUMA、2019年から導入された車両だが、高速運転のために新幹線の技術を活かして作られており、キングスクロスを出てしばらく経つと時速200キロ程度で安定運転される。スピードが出ているためか少し揺れを感じることもあるが、ちょうど東海道新幹線に乗っているときのような心地よい小刻みな揺れである。

2時間の鉄道旅はあっという間に過ぎ、電車は定刻通りにヨークに到着。ヨークの駅は決して大きくはないものの、天井が高く、ホームが独特の作りになっていて歴史を感じる。ヨーロッパに多いが改札らしきものがなく、誰でも構内に自由に入り、自由に出ることができる。コーヒーショップや簡単なおみやげ物店、コンビニエンスショップなどが入っている。



駅の正面出口を出るとすぐに城壁が目に入ってくる。城壁に沿って歩くことができるようなので北に向かって少し歩いてみた。石造りのしっかりとした城壁の上を歩くことができるようになっている。階段を上がり北の方角へ城壁沿いに進んでいく。そのまま歩き城壁を降りて更に北の方へ歩くと大きな公園にぶつかる。ミュージアム・ガーデンズと呼ばれているこの公園の敷地内にはヨークシャー・ミュージアムという博物館がある。1830年にできた公園だが、敷地内にはセントメアリー修道院の石壁なども残されており、駅から



も近く、ヨークでは大きな植物公園である。広い敷地に芝生や花壇があり、野生動物も多いそうだ。週末のお昼前ということで、芝生の上でのんびり過ごす人が多い。

ヨークの駅に着いてからまだそれほど経たないのに、変に気を張ることもなく心からリラックスできる雰囲気を感じる。英国でも有名な観光地であり、色々な国の人が街歩きを楽しむ、そんな場所だから感じる心地よさであろうか、どこかゆるりとした雰囲気が漂っている。そのまま庭園内にあるヨークシャー・ミュージアムに入る。古代、化石の時代から近代までのヨークシャー地方の歴史を学ぶことができる。特にローマ時代から中世にかけての貴重な史料なども多い。ちなみにこの場所はもともとセントメアリー修道院。地下の展示では修道院にあった暖炉の跡など博物館の建物自体の変遷も知ることができて面白い。



公園を出てヨーク大聖堂に向かう。この大聖堂は今回の訪問で私が特に見たかった建築物であり、この大聖堂に入ることを楽しみにしていた。もともと旅行の際に各地にある大聖堂や教会、寺院などを訪れることが多い自分だが、ヨーク大聖堂はイングランド北部を代表する大聖堂と言われるだけあって非常に大きく荘厳な建物として有名でもある。長い歴史の中で損壊と修復を繰り返し、本日もそこに建つ大聖堂、外から見て

も迫力があるが、中に入ってみるとまさに圧巻である。高い天井と多くの装飾、ため息以外に言葉が出てこない。他ではなかなか見ることができない大きさのステンドグラスも素晴らしいが、この大聖堂でひとときわ目を引くのがパイプオルガンである。ここまで美しく装飾されたパイプオルガンは珍しく、思わず表側と裏側双方に行ったり来たりして何度も眺めてしまった。今回は大聖堂をゆっくり見るだけであったが、予め入場登録を行って中央塔の上に登る選択も可能。大聖堂の地下にある遺跡を見ることもでき、長い歴史を感じることができる。



小雨が混じる中、ヨーク大聖堂を出て街を少し南下、賑やかなパーラメントストリート付近を起点にあちらこちらと歩き回る。城壁の街だからだろうか、ヨークの街並みは細い道も多く、どこも観光客に溢れているように見えるが、一本路地に入ると人足が急に減り、むしろ少し寂しい位に感じる通りがあったりもした。但し、どのお店も古いヨークの街並みという景観を崩さないように、できるだけ元の建物や道の持つ雰囲気を壊さないように作られている印象を受けた。



観光地として有名なシャンプルズ通りを目指して旧市街を歩く。パラメントストリートから1本中に入ると広場でシャンプルズ・マーケットが開かれており、大変な賑わい。食べ物から衣料、お花、ハンドメイドの手帳などの手工品、果ては電化製品まで、色々なものが売られている。規模は決して大きくないものの人々の賑わいはすごい。色々な言葉が飛び交う市場で人の流れを眺めながら飲み物を飲みつつちょっと休憩する。

シャンプルズ・マーケットを抜け、少し進むとヨークで一番有名で、ヨークの観光動画などでは必ずといって良いほど映像が出てくるシャンプルズ通りに入る。中世の面影が残る細い通りで、イギリスを舞台にした映画ハリーポッターの中で出てくる横丁のモデルとなったと言われており、写真を取る人も多い。決して長い距離はないが、建物が少し変わっていて、一つ一つのお店が通りの雰囲気溶け込んでいてとても美しい。今回の滞在中、このシャンプルズ通りは昼と夜に2度訪れたが、あいにくの天気ということもあってか、夜の人通りは少なくやや寂しい印象であった。



シャンプルズ通りから10分ほど更に南に下がると、いきなりポツンと大きな石造りの棟が出現する。小高い丘の上に立つ城塞、これがクリフォードタワーである。昔のヨーク城の見張り台の塔で、時代とともに様々な使われ方をしてきた歴史ある遺跡である。棟としては破壊されてしまった部分が多く、今は外壁のみが残り、中は吹き抜けのようになっている。棟の入り口までは狭い石の階段を登っていく。急な登り階段だが、途中で一休みできるベンチも2カ所用意されているので、息切れした際には座って景色を眺めながら一休みできる。棟の中に入ると中から棟の最上部を眺めることができ、そこまで続く階段で屋上へ登ることができる。屋上からはヨークの街を360度眺めることができ、ヨーク大聖堂も視野に納めることができる。

長い歴史の中で、この棟は刑務所として使われていた時代もあったようだ。この後のヨーク城もそうだが、昔のお城がその後刑務所として使われるケースをここヨークでは幾つかの場所で見ることができる。

クリフォードタワー屋上から見て、すぐ隣りに見えるヨーク城ミュージアムを訪問する。こちらの博物館、入るまではあまり情報を持ってなかったのだが、見てみるととても面白い博物館だった。昔からのヨークの家庭の様子などが実寸大でショールームのようにジオラマ展示されており、他にも各時代の様々な日用品や衣料などが展示され、時代による人々の生活や文化を知ることができる。また、ヨーク城は刑務所として使われていた時代があったことから、地下では刑務所の部屋も再現されており、とてもリアルすぎて思わず寒気を感じたほどであった。マンチェスターのサルフォードミュージアムでもビクトリア朝時代の街並みが再現されていたが、こちらのミュージアムでは当時の衣装のスタッフが手回しオルガンを鳴らしたりと動きもあって、まるでテーマパークにいるかのように面白かった。



歩き回ったことで疲れたのかその日の夜はぐっすり眠り、翌朝を迎えた。外は大粒の雨。傘をさしていても濡れてしまうような荒天の中、外に出る。旧市街の散策が中心だった昨日と違い、今日は家族で楽しめるヨークで一番の有名（と個人的には思っている）スポ



ットに向かう。なお、その場所は幼き頃の懐かしい友人に会える場所でもある。

ヨークの鉄道駅を出て東の方へ歩いていく。15分ほど歩くと国立鉄道博物館がある。鉄道博物館としては世界で見ても巨大な博物館の一つであり、その中でも特にグレートホールと呼ばれる展示エリアは吹き抜けの巨大な空間に転車台を中心に多数の車両が展示されている。入場を予約していた開園時間に先頭で入って真っ先にグレートホールに向かう。ここには愛くるしい丸目の初代新幹線0系の実車が展示されている。ちなみに今年は東海道新幹線開業60周年ということでまさに還暦を迎える0系に会いに来たような感じだろうか。今回の旅は懐かしい幼馴染のような0系とこの異国の地で再開したくてヨークまで足を運んだと言っても良い位の楽しみにしていた再会であった。シートといい、愛嬌のある形といい、幼き頃にワクワクしながら乗った0系が退役後に長い鉄道文化の歴史を持つこのイギリスの博物館に堂々と展示されており誇らしい。中のシートにも座ることができ、乗務員室など懐かしい場所も眺めることができる。このグレートホールには他にも蒸気機関初期のものから最新のユーロスターまで、鉄道の時代を作り上げてきた本物の車両を間近で眺めることができる。私事で恐縮だが、私が勤務するジャルパックも、今年ブランド誕生から60周年という記念の年を迎えた。まさに0系と同じ年ということなのだが、そういう点からも目の前にある0系に日本の高度成長期以降の長い歴史を改めて感じてしまう。

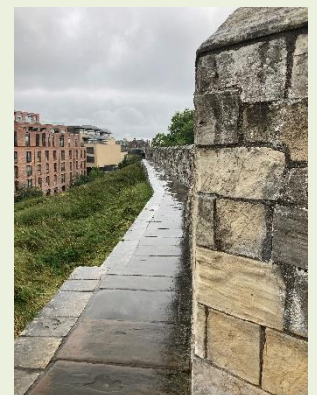
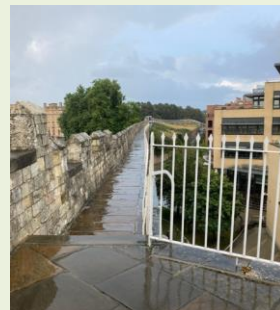
さて、この博物館に展示されている車両は走っていた時代も動力機関も様々であるが、こうやって歴史ある車両を比較する際に、例えば車両を繋ぐ連結器の違いを見てみるのも面白い。0系は日本なのでお馴染みの握手をするような自動連結器がついているが、英国の車両は大陸特急鉄道などを除き近代でも手動のものも多い。海外のアクション映画のハイライトなどで主人公が大きなレンチで電車を切り離すシーンなどがあるが、あれは手動連結器だから生まれるシーンなのだろう。ここに展示されている古いものは大部分が鎖式で、そんな違いを比べてみるのも鉄道の一つの楽しみ方である。

グレートホール以外にも鉄道関連の史料展示や子供向

けのテーマ展示エリアなどがあるが、一部は追加料金が発生する。グレートホールにはショップと喫茶スペースがあるので、広い博物館の中を歩き疲れたら目の前の鉄道を眺めながら一休みするのも楽しい。



少し空き時間ができたので、ヨーク駅を通った時に昨日到着後に歩いた城壁を逆方向である東方にあるミクルゲート付近まで歩いてみた。東に進むにつれ城壁は徐々に高くなっていく。途中、片側に壁も手すりもない区間があり、雨で足元滑る中、ちょっとした度胸試しのような体験をすることとなってしまった。双方向通行なので向かいから歩いてくる観光客と傘をさしながらすれ違うのもまた怖い。雨の日に城壁を歩くのは結構怖い体験となるので自己責任とはいえくれぐれもお気をつけ願いたい。寒いはずの雨空の下で冷や汗をかきながらミクルゲートまで到着し城壁を降りて駅まで戻った。





私がヨークを訪れたこの日はちょうどヨーク競馬場でレースが開催されていた日であった。そのため雰囲気だけでも楽しみたい、入場券を購入しておいた。雨の中開催されるか不安だったが、ヨーク駅前から競馬場行きのシャトルバスが出ていたので乗車する。乗ったもののしばらくは発車せず、満席になるのを待って出発した。ヨーク競馬場は1700年代から始まる歴史を持つ名コースで、バスの中ではスーツ姿のオシャレな紳士もいらっしたりする。大部分が気楽な恰好の方だが、仲睦まじい老夫婦も多い印象であった。バスの中もやや落ち着いた時間が流れ、何となくほっこりする。バスで10分程度、ヨーク競馬場へ到着。予想以上に大きなスタンド。食事や飲み物を買う場所の多数あり、休憩するような場所も多い。なお、グランドスタンドエリアとパレードリング（パドック）の間の距離があるので購入される場合には時間に気をつけた方が良さそう。イギリスの競馬は観客と競馬場スタッフ、そして騎手や馬主の方の距離が近いと感じることが多い。また紳士の国の文化らしく、観客の人もフレンドリーで礼儀正しい人が多い気がする。この日、パレードリングに向かう騎手が目の前の道を横切ったのだが、子供たちが騎手にサインを求め、これから騎乗する騎手が普通にそれに応えサインをしている姿などいかにもイギリスの競馬場ならではのものかもしれない。

そんなイギリスの競馬をしばらく楽しんだが、雨がまた本格的に降ってきたので少し早めに街に戻ることにする。シャトルバスに乗車してヨーク駅に向かう。

スムーズにヨーク駅に到着。雨がやまない中、帰りの電車の時間には少し早めに駅に着いてしまった。幸いヨークの駅の中にはカフェだけでなく本格的なパブもある。曇天模様の空のせいで少し暗い駅構内でビールを飲みながら今回の旅を振り返りつつ電車を待つ。幸い電車は定刻で運行されているようだ。

1泊2日の短い旅だったが、充実した観光都市ヨークの滞在であった。落ち着いた街並み、歴史を物語る城壁、のんびり過ぎていく時間、そして様々な言葉が飛び交うレストラン。大聖堂は荘厳で凛々しく、様々な世代の人が楽しい時間を過ごしている。ヨークが観光地として人気を得て、世界各地からたくさんの方が訪れる理由は色々あるのだろう。今回の訪問で感じた私にとってのヨークの魅力、それは競馬場でたまたま隣にいた地元の人が「日本から来たの？ ゆっくり楽しんで帰ってよ」と声をかけてくれる暖かさ、街を歩く時の不思議とリラックスした空気。それらが醸し出す居心地の良さであった。今度は天気の良い日にまた訪れて、ゆっくりと城壁を巡ってみたいと思っている。



ジャルパック 中井策太郎

